



事故の連鎖が止まらない！本部が緊急声明発出する！ 全組合員で読み合わせしよう！

本来業務に集中し、確実な技術継承と技能継承を実現させ、 JR東日本の揺るぎない安全を全組合員の力で創り出す緊急声明

4月12日、山手線神田～秋葉原駅間での電化柱倒壊事故は、「究極の安全」を目指し部内原因による事故を完封とした「グループ安全計画2018」の安全文化が根付いていないことを証明した事故であり、JR東日本の安全姿勢と技術力の根幹が問われた。私たちは、一瞬にして信頼を失った事実から目を背けてはならない。しかし、その後も職場が再発防止に向けて奮闘する一方で、事故の連鎖はやむことなく同種事故や大規模な輸送障害が跡を絶たない。さらには、11月24日には白河駅構内で工事前のバラストレギュレーターの点検中にJR社員が機材に挟まれ死亡する痛ましい事故も発生した。これらの連続して発生する事態を目の当たりにしたとき、JR東日本の危機管理能力の低下は指摘せざるを得ない。私たちは、事故の本質に向き合い、真の原因究明を通じて背後要因をえぐり出し、安全な公共交通を実現するために奮闘しなければならない。

そのような中、職場でも信じられない事象が連続して発生している。11月23日に中野電車区で一般見学者も参加して行われた新宿地区主催「働く車両大集合」というイベントでは、「運転士・車掌お仕事体験」をしていた男児が運転台のノッチを扱ったことにより、手歯止めを引きずりながら車止めに向かって約35cm起動するという事象が発生した。この車両の床下には子供が潜っていたことも報告されている。また、12月5日に鶴見線営業所で開催された「第3回鶴見線子どもフェスタ」では、通電状態である車両の床下に何の防護措置も行わないまま家族連れの見学者が入り込み、パン点検台に昇る人も出るなどの事態が発生した。これらの見学会は、委員会活動等での社員の自主的な発想の中から計画されたもので、一歩間違えれば、命をも奪う大事故になっていた可能性さえある。

会社は、「社員の成長」を目的に据え、自己啓発の一環として「My Project」や「各種委員会活動」など、自己啓発活動を積極的に推進してきた。最近では、「作業ダイヤに則り、ミスが許されないものを“作業”。ミスをしてやり直せるMy Projectを“仕事”」「“作業”はきっちり、“仕事”は楽しく」という職場指導がおこなわれ、本来業務以外の「仕事」が当たり前におこなわれる職場風土が醸成されている。また、「自らの失敗を挽回するためにMy Projectをやる」という職場の声さえ聞こえ、My Projectが理由で36協定違反を生み出している。

よって、JR東労組は安全第一の職場風土と乗客からの信頼を回復するために、過度な競争の道具として歯止めがかからなくなっているMy Projectならびに委員会活動のあり方を重く受け止め、12月15日に開催された申1号第2回交渉で、安全を脅かす事態を創り出しているMy Project、委員会活動の「一時中止」を求めた。

全組合員に訴えます！

2015春闘では、職場に過度な競争を持ち込む「所定昇給額を算出基礎にしたベースアップ」が生み出す危険性について全職場から議論を創り出し、チームワークで成り立つ鉄道業に「過度な競争はいらない」という結論を導き出してきた。JR東労組は、自己啓発活動を否定するつもりはない。国鉄改革以降、私たちは自分の力で職場の課題を発見し、解決の道筋を切り拓きJR東日本を発展させてきたことは揺るぎない事実である。

My Projectなどの自主活動を取り組む意義・原点は、社員の「問題発見能力」と「改善能力」の向上であり、その根底には鉄道業の生命線といえる安全や危機管理といった命と直結した問題意識が貫かれていることが前提でなければならない。しかし、社員間の競争の中で、評価を気にするあまり本来業務より自己啓発活動が優先され、高い評価を求めるあまり子どもたちの命まで犠牲にしかねない事態が職場に生み出されたことは本末転倒であり、JR東日本の安全を脅かす事態である。労使で確認した本来の姿とは大きくかけ離れ、鉄道マンとしての危機管理能力を欠かさせる事態は看過できない。

会社は、連続して発生している事故や大規模輸送障害を受けて、「凡事徹底」として社員一人ひとりの役割の再認識を訴えているが、凡事の積み重ねは事故や事象の背後要因を掘り下げてこそ活かされるものである。ましてや、本来業務よりも自己啓発活動が優先され、安全を脅かしている職場環境を是正することなしに、この危機的な状況を乗り越えることはできない。

JR東日本の安全文化を創り出すことが、今ほど強く求められている時はない。労使で創り出した「責任追及から原因究明へ」の安全哲学のもと、安全の確立と技術継承、技能伝承を確実にこなすためには、JR東日本労連の仲間との連携は欠かすことはできない。これまでの効率化施策の検証を職場から展開し、安全を脅かす職場風土の是正に向けて、全組合員との討論を強く要請する。

安全を第一にしたJR東日本の企業風土、本来業務に集中し、競争のない働きがいのある職場を全組合員で実現しよう！そして、安全な年末年始輸送を全組合員の力で実現するために、全職場から奮闘しよう！